

R7. 8. 1	令和7年度	資料 7
佐世保市歯・口腔の健康づくり推進協議会		

令和 6 年度受託研究報告書

研究課題：歯周病検診の実施及び評価と佐世保市の
歯・口腔の健康づくりに関する研究

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔保健学

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

背景

佐世保市では、市民の口腔内状況の把握と改善のため、昭和 60 年 4 月から佐世保市歯科医師会の協力のもと、成人病巡回健診に併せた歯科健診を実施していた。平成 12 年度からは保健所内において、平成 15 年度からは地域の歯科医院において歯科健診が受けられるようにと継続してきた。離島（黒島、高島、宇久島）においても、島ごとに実施する総合健診の日程に合わせて歯科健診を継続してきた。

歯科口腔保健の推進に関する法律が平成 23 年に制定され、長崎県はそれに先立ち歯・口腔の健康づくり推進条例を平成 21 年に制定した。佐世保市でも平成 24 年に佐世保市歯・口腔の健康づくり推進条例を制定し、歯科健診を行うことで市民の口腔状況の把握、保健指導と歯科医院への受診勧奨の推進に努めてきた。

令和 4 年度に「第 1 次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」の最終評価を行い、令和 5 年度に「第 2 次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」を策定し、令和 6 年度から実施している。

方法

令和 6 年度も例年通り、佐世保市保健福祉センター所内での歯科保健相談および成人歯科健診、佐世保市が抱える離島での成人歯科健診を実施した。また、佐世保市歯科医師会への委託による佐世保市成人歯科健診（節目歯科健診を含む）も実施した。対象は、高校生を除く 18 歳以上のすべての市民であった。

節目年齢の満 30 歳にも無料ハガキの送付を行い、満 30 歳、満 40 歳・満 50 歳・満 60 歳に該当する 10,566 名※の市民には、歯科健診を無料で委託歯科医療機関にて受けることができるようにした。

妊産婦歯科健診についても、妊婦・産後 1 年未満を対象に無料で歯科健診を受けることができるように母子健康手帳の交付時に無料券を渡した。

さらに、若年者における歯周病の状況を把握するために、令和 6 年度は長崎短期大学の学生を対象に 1 日間の歯周病検診を実施した。

※令和 6 年 10 月 1 日における年齢別推計人口から算出した。

結果

令和6年4月1日から令和7年3月31日までの成人歯科健診受診者は1,445名であった。そのうち長崎大学でのデータ分析について同意が得られなかった106名を除外した1,339名について分析を行った。以下の3つの項目にわけて結果を示す。

1. 1,339名の成人歯科健診の全体の受診状況について
2. 成人歯科健診（節目健診を含む）の状況について
3. 妊産婦歯科健診の状況について

表に示す年齢階級の定義は以下の通りである。

20歳：15歳から24歳	30歳：25歳から34歳	40歳：35歳から44歳
50歳：45歳から54歳	60歳：55歳から64歳	70歳：65歳から74歳
80歳：75歳から84歳	90歳：85歳以上	

○佐世保市の歯科健診 全体の概要

令和6年度佐世保市成人歯科健診実績数1,339名のうち、

【受診目的による長崎大学でのデータ分析】

1. 成人歯科健診（全体）同意を得た1,339名 ①+②

2. 成人歯科健診 975名 ①

健診先:委託(市内歯科医院)・所内・離島
(黒島、高島、宇久)
長崎短期大学における若年者健診

節目健診 542名
(満30・満40・満50・満60歳)
無料受診ハガキ勸奨

+

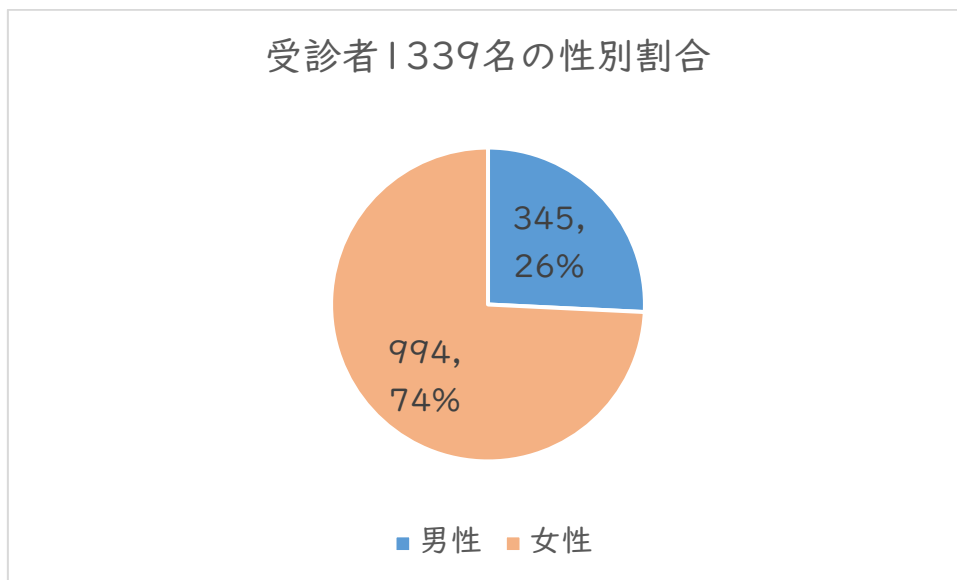
3. 妊産婦歯科健診 364名 ②

健診先:委託(市内歯科医院)・所内

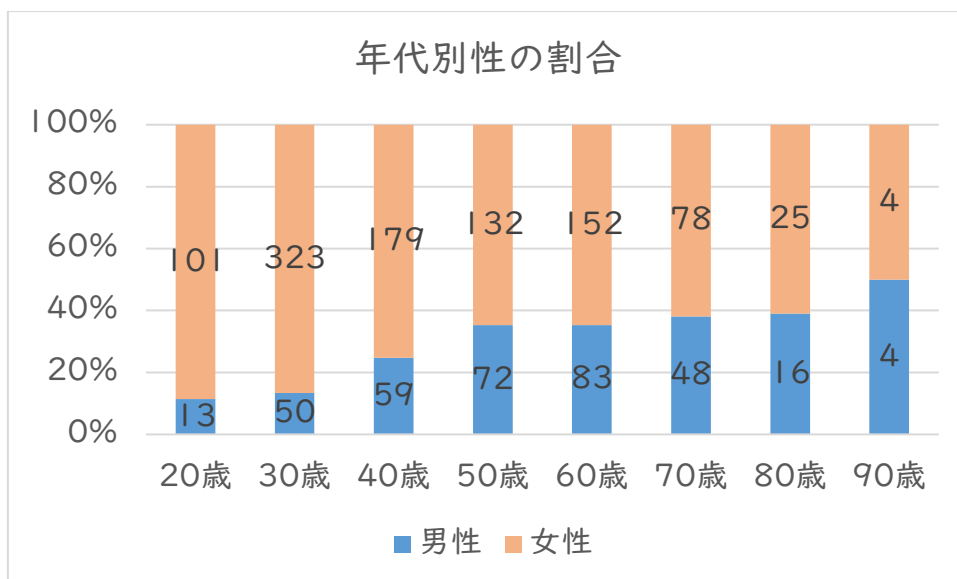
(・妊婦歯科健診 18歳以下含む
・産婦歯科健診)

1. 1,339 名の成人歯科健診の全体の受診状況

① 性別



②年代別の性別の割合

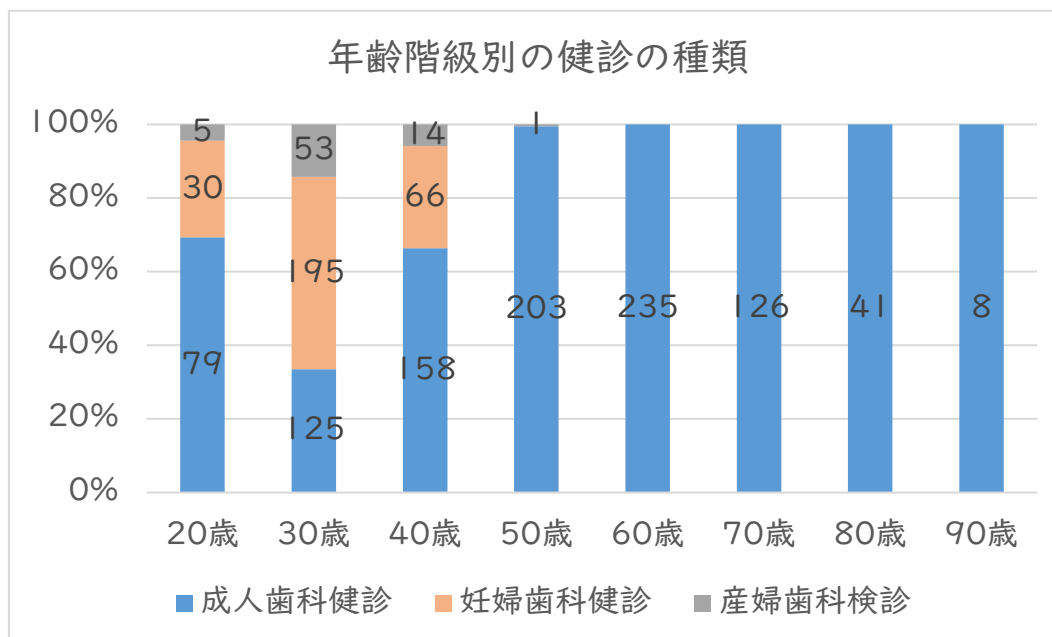


数字は人数を示す

男性の受診者の割合は、年齢が上がるごとに高くなったが、女性に比べて低く、全体では 1/4 であった。

最年少は 17 歳で最高齢は 90 歳であった。

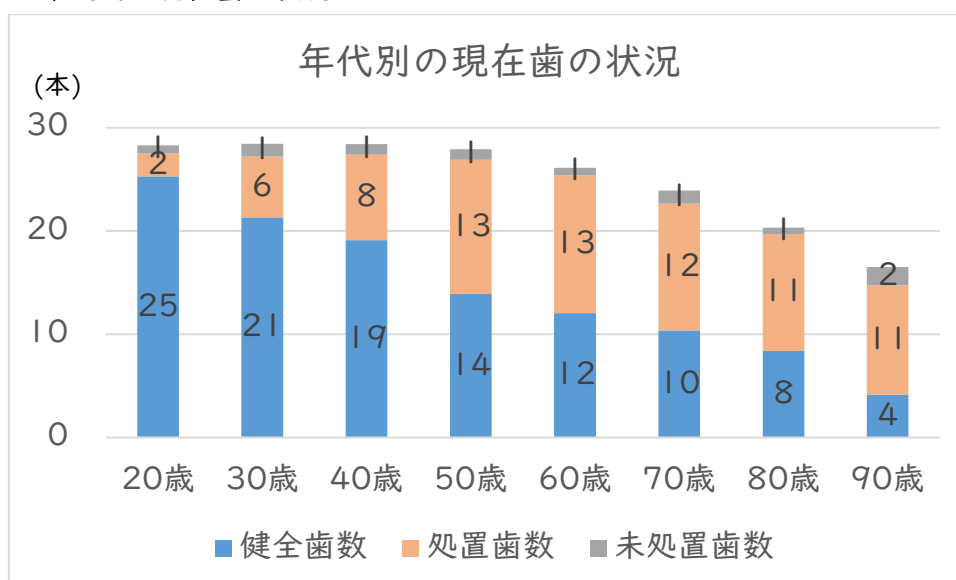
③年代別健診の種類



数字は人数を示す

成人歯科健診受診者の割合は全体の73%（975名）であり、妊婦歯科健診の割合は22%（291名）であり、産婦健診の割合は5%（73名）であった。

年代別の現在歯の状況

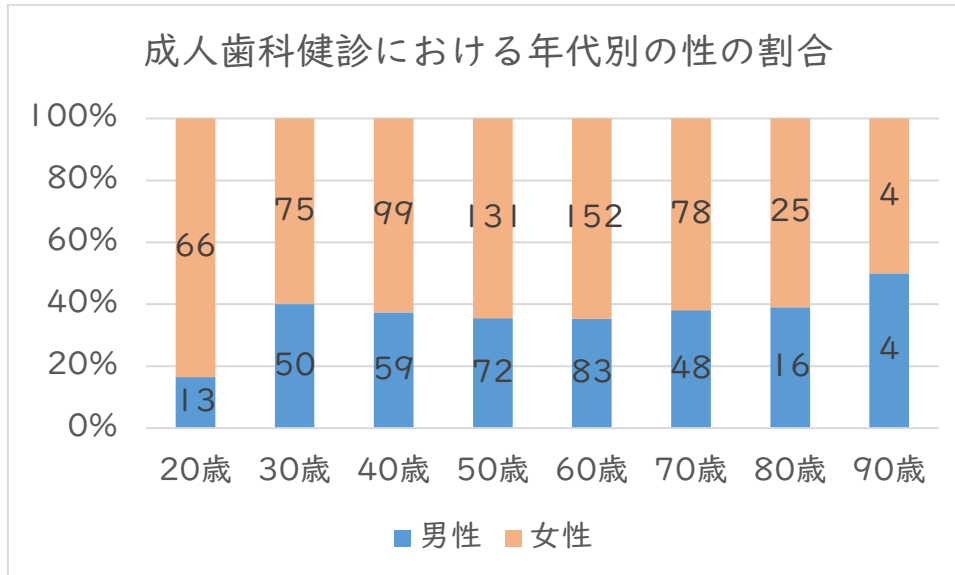


数値は平均の本数を示す

未処置歯は、90歳以外の年齢階級において1本であった。処置歯数は50歳まで増加し、60歳以降では現在歯数の減少とともに減少した。

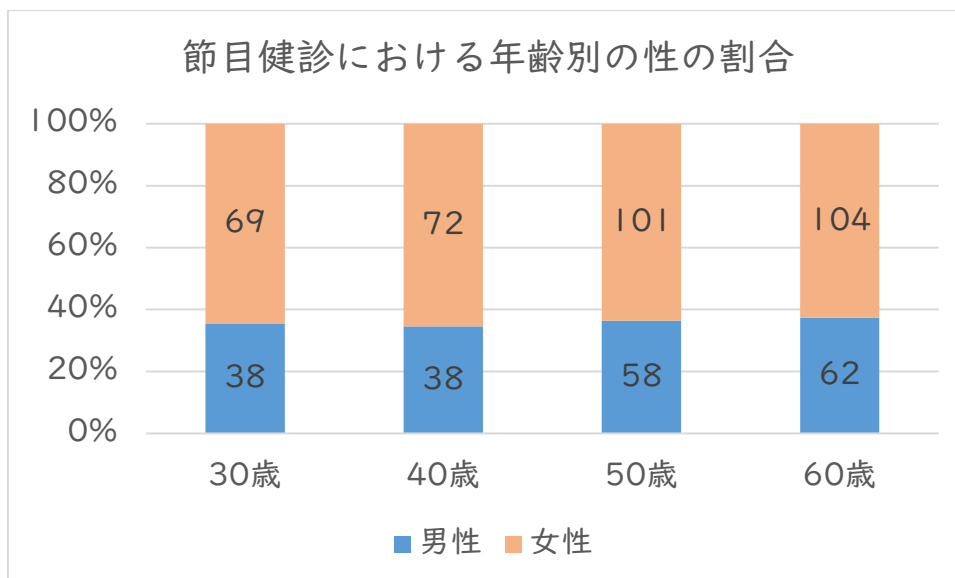
2. 成人歯科健診について

①成人歯科健診における年代別の男女の割合



数値は人数を示す

成人歯科健診受診者は 975 名でそのうち男性受診者の割合は 40%であった。

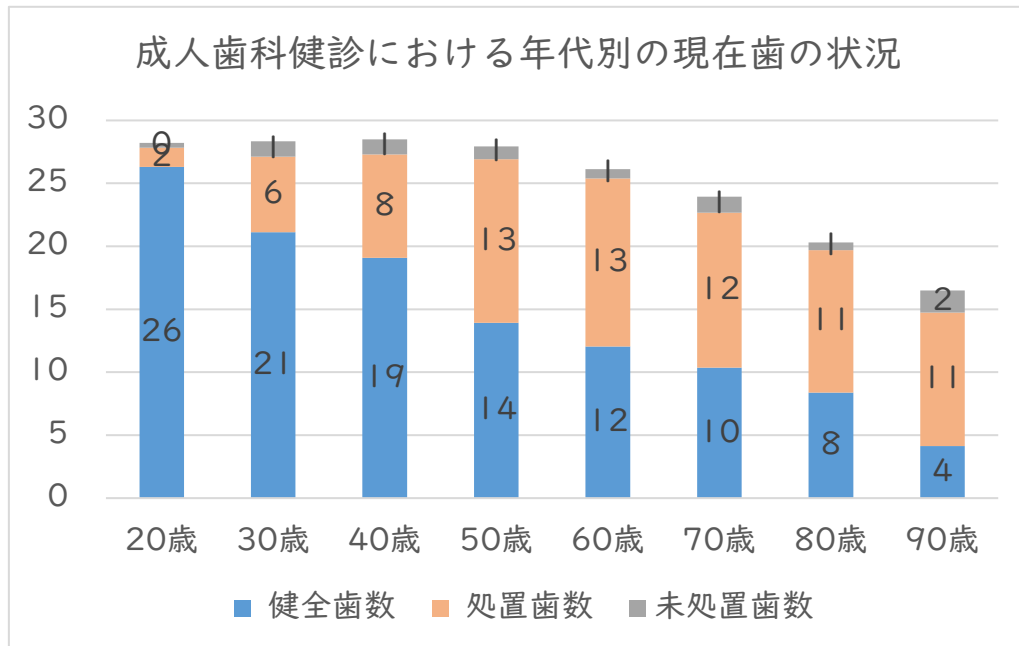


数値は人数を示す

成人歯科健診受診者における節目健診受診者数は 542 名（56%）であった。

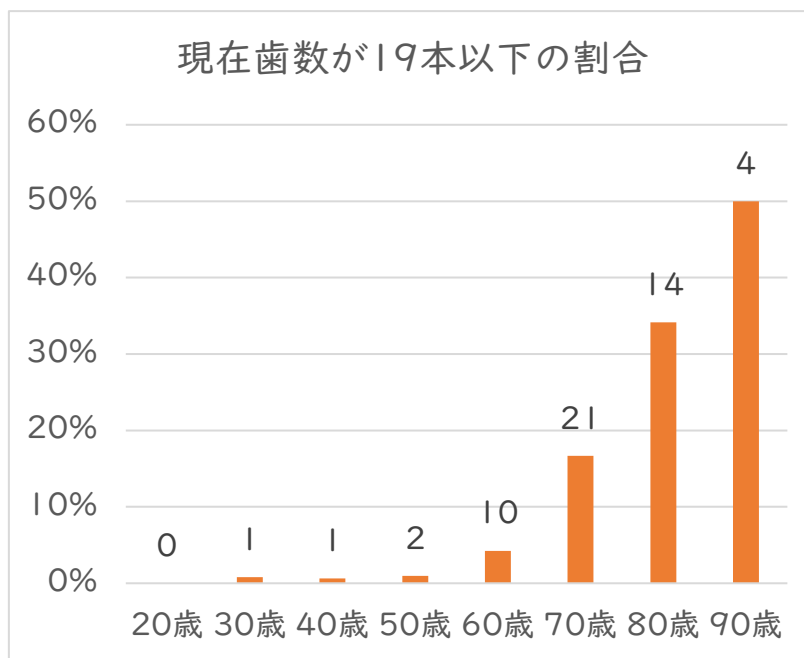
節目健診においても男性受診者の割合は 40%程度であった。

②成人歯科健診における年代別現在歯の状況



数値は平均の歯の本数を示す

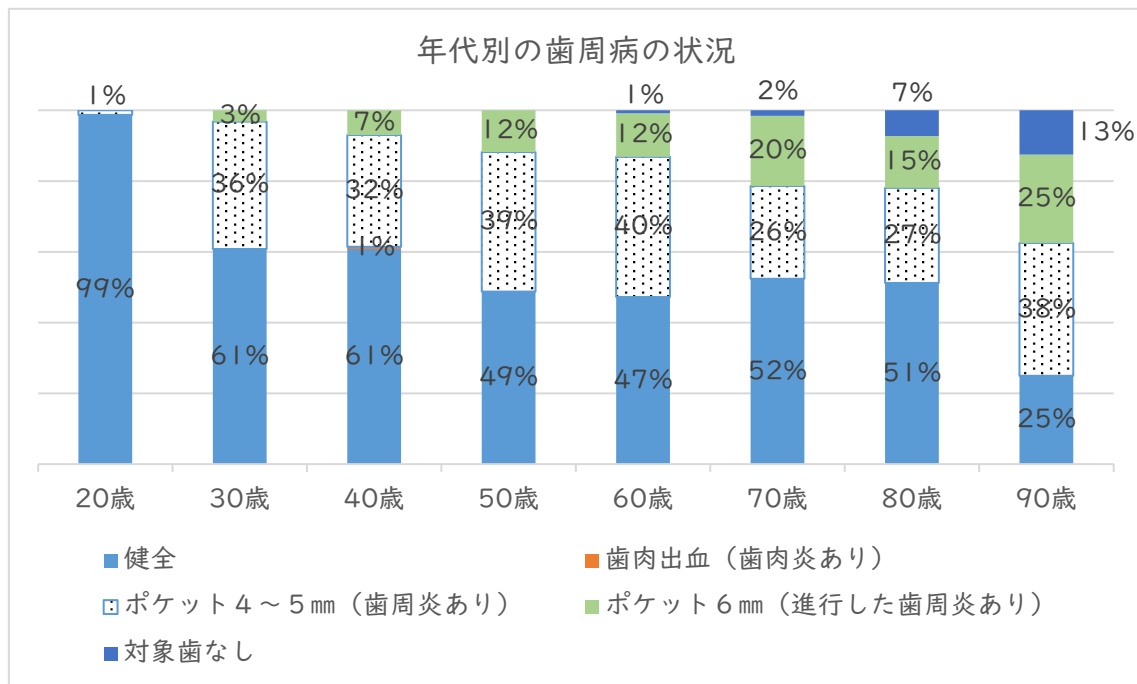
一人当たりの未処置歯数の平均値は、30歳から80歳において1本であった。



数値は人数を示す

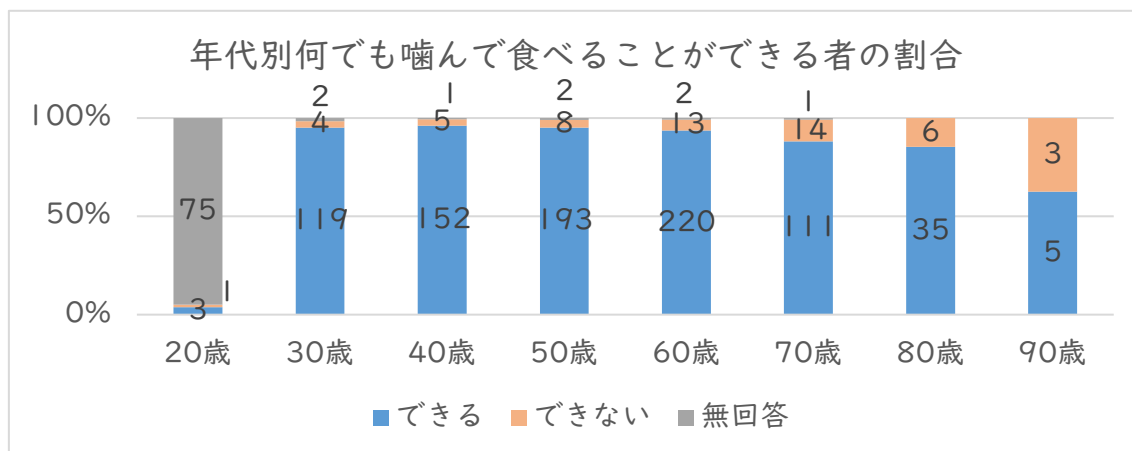
現在歯数の減少は、60歳から急激に認められた。

③成人歯科健診における年代別の歯周病（歯肉炎と歯周炎）の状況



受診者の少ない90歳（8名）を除いた年代において、30歳の40%に歯周炎が見認められ、30歳以降70歳まで進行した歯周炎をもつ者の割合は増加し、80歳で減少することが認められた。

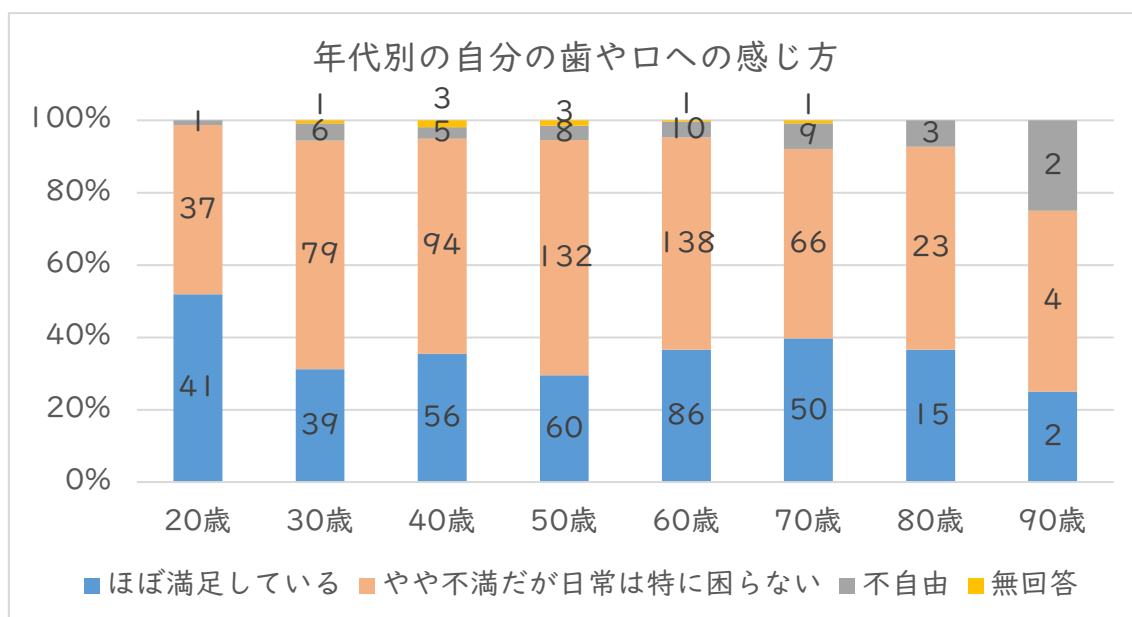
④何でも噛んで食べることができる者の割合



数値は人数を示す

受診者の少ない90歳（8名）を除いた30歳から80歳において、何でも噛んで食べることができる者の割合は高く、85～95%であった。

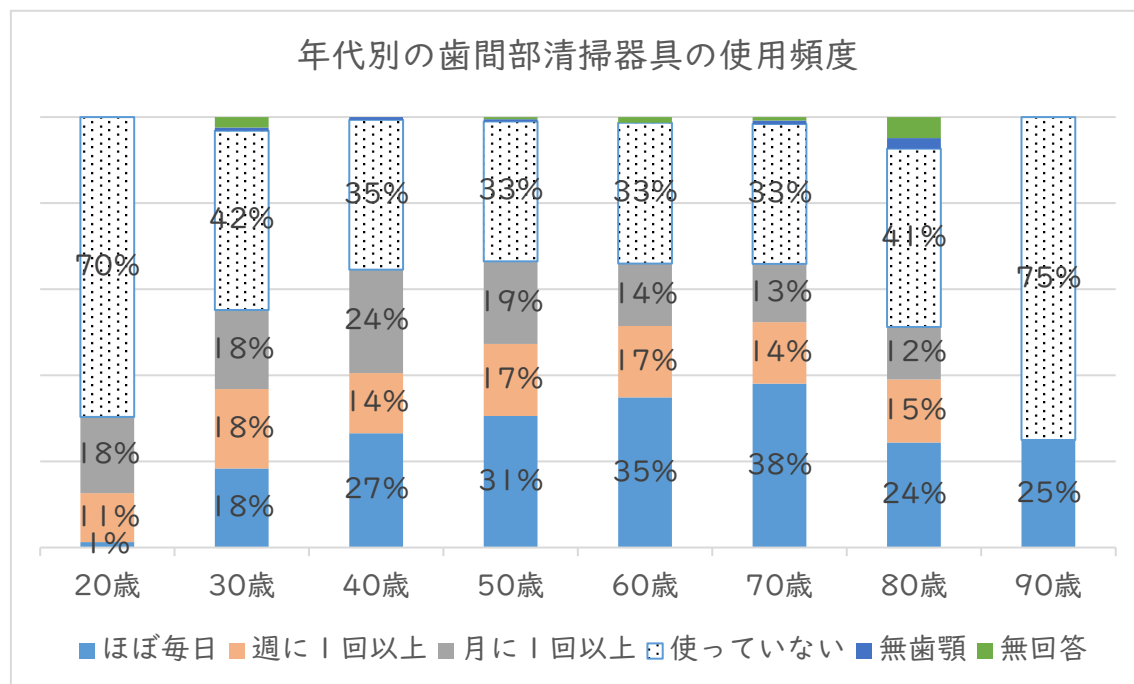
⑤歯や口の状態についてどのように感じているかについて



数値は人数を示す

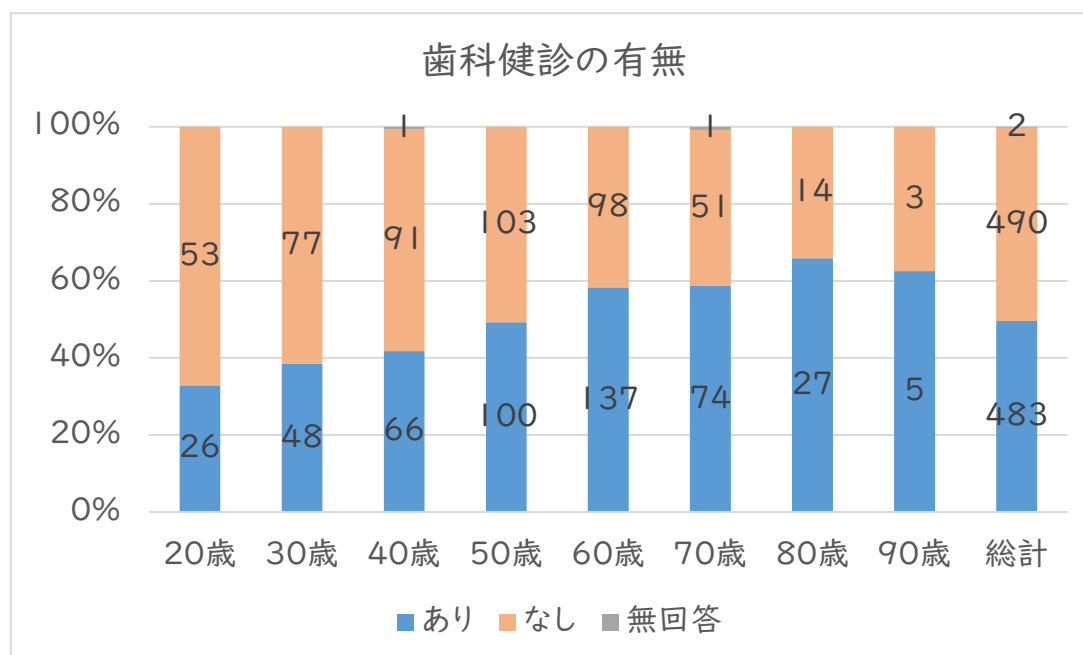
ほぼ満足している者の割合は36%（349名）、やや不満だが日常は特に困らないと回答した者の割合は59%（573名）、不自由と回答した者は5%（44名）であった。

⑥歯間部清掃器具の使用頻度



20歳で歯間部清掃器具を毎日使用する者の割合は1%であり、使用しない者の割合は70%であった。30歳から70歳にかけて毎日使用する者の割合に増加がみとめられ、80歳でその割合に減少が認められた。

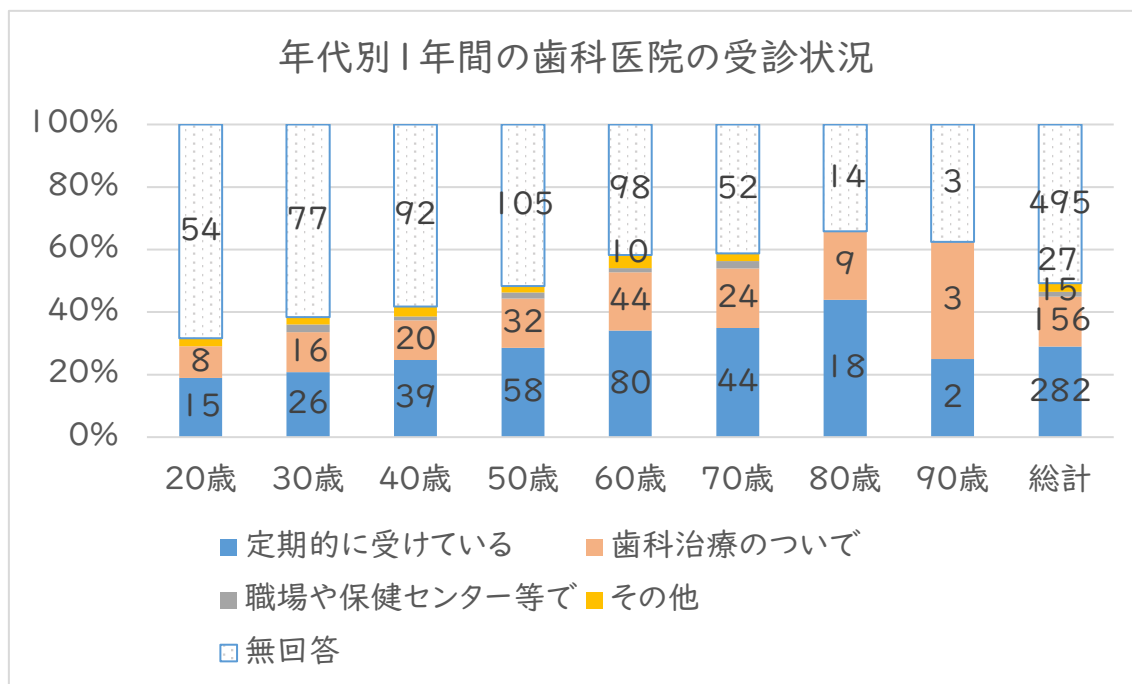
⑦歯科健診有無の割合



数値は人数を示す

歯科健診受診の割合は、20歳で33%であったものが徐々に増加し、80歳代では2倍の66%であった。全体では、50%が歯科健診ありと回答した。

ここ1年間の歯科医院の受診状況

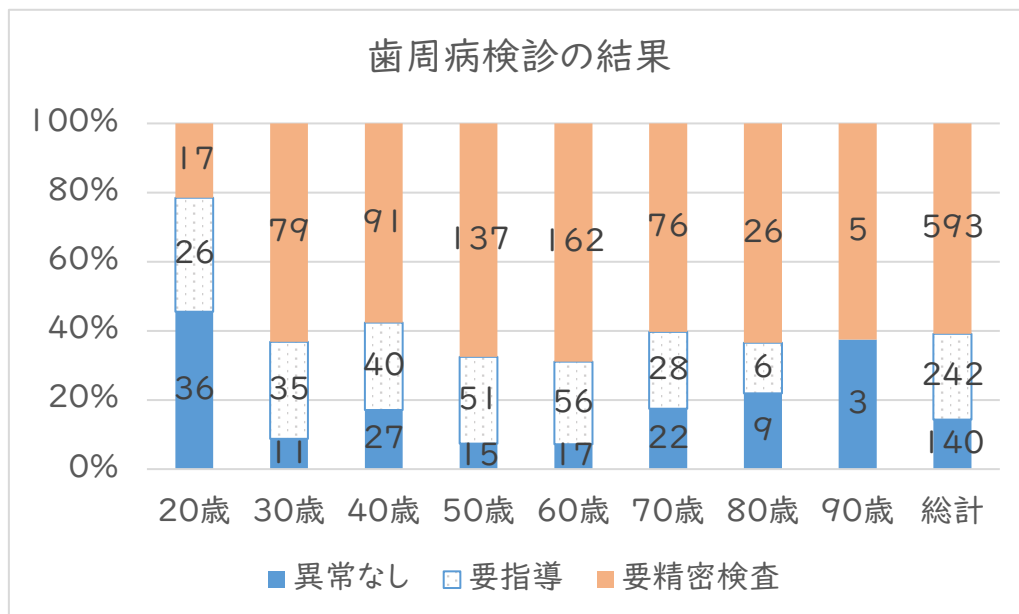


数値は人数を示す

第2次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画において「過去1年間における歯科健診を受けた者の割合が65%」を目標にしている。令和6年度における歯科健診を受けた者の割合は、「定期的に受けている」「歯科治療のついて」と「職場や保健センター等で」を併せると47%（975名中453名）であった。望ましい歯科医院の受診状況は定期受診であり、30歳代の19%から80歳代の44%へと増加が認められた。

この質問項目についての無回答は51%（495名）であった。

⑧成人歯科健診の結果



数値は人数を示す

成人歯科健診の結果、全体で異常のない者の割合は 14%であり、精密検査を必要とする者の割合は 61%であった。

⑨満 30 歳、満 40 歳、満 50 歳と満 60 歳を対象にした成人歯科健診の結果

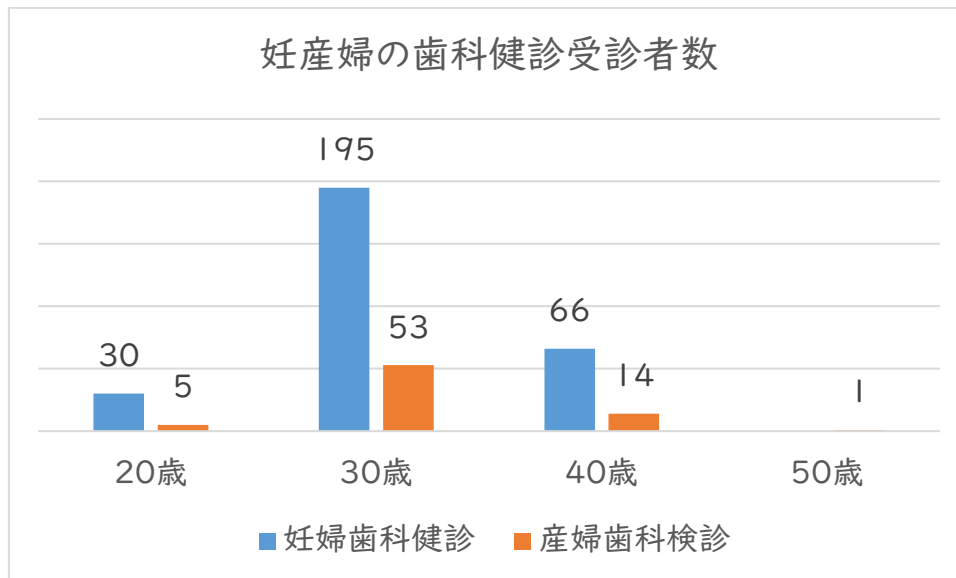
	佐世保市 人口※①	受診者数②	人口に対する受 診者の割合 ②÷①×100
満 30 歳	1840	107	6%
満 40 歳	2566	110	4%
満 50 歳	3378	159	5%
満 60 歳	2782	166	6%
合計	10566	542	5%

※令和 6 年 10 月 1 日

節目健診の受診者の割合は、佐世保市人口の 5%であった。

3. 妊産婦健診について

①妊産婦の歯科健診受診者数

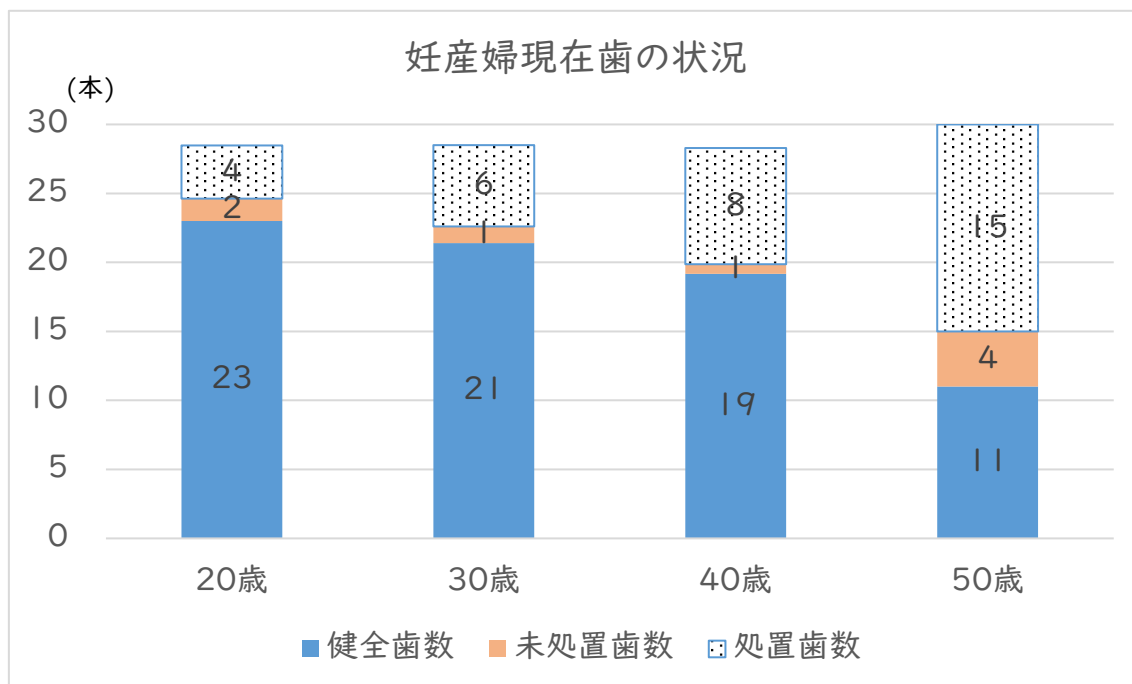


数値は人数を示す

50歳の1名は産婦歯科健診受診者であった。

妊婦歯科健診受診者の合計は291名であり、産婦歯科健診受診者は73名であった。

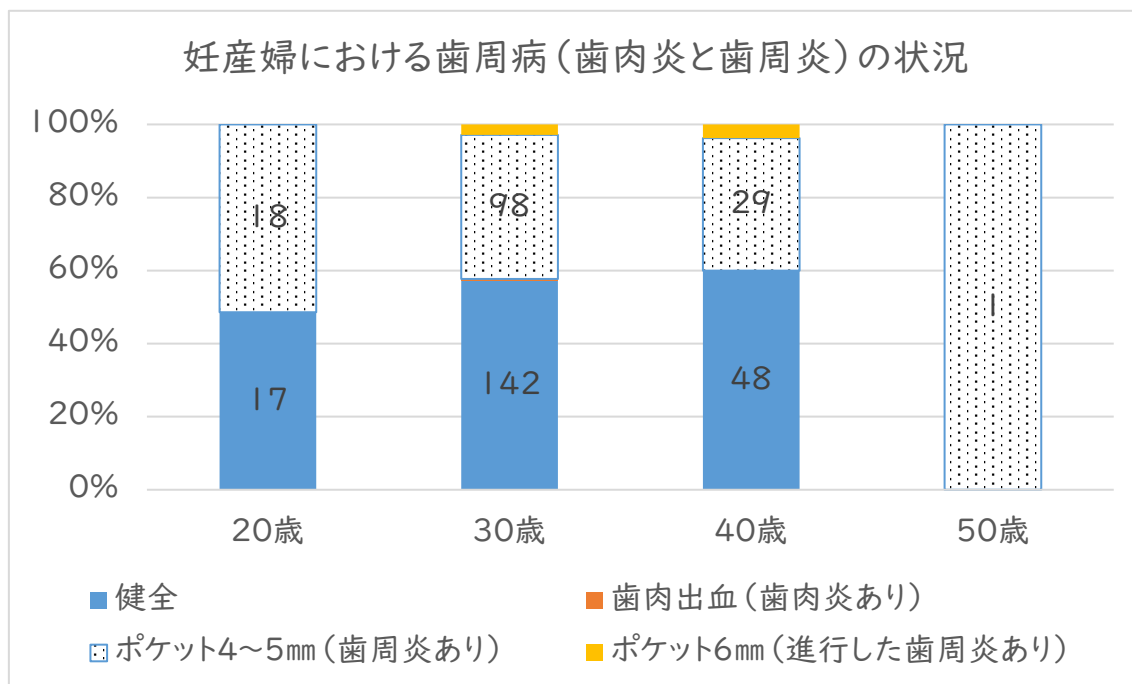
②妊産婦の現在歯の状況



数値は平均の本数を示す

現在歯数の減少は見られず、未処置歯数も 1 - 2 本であったが、健全歯数が年齢とともに減少した。

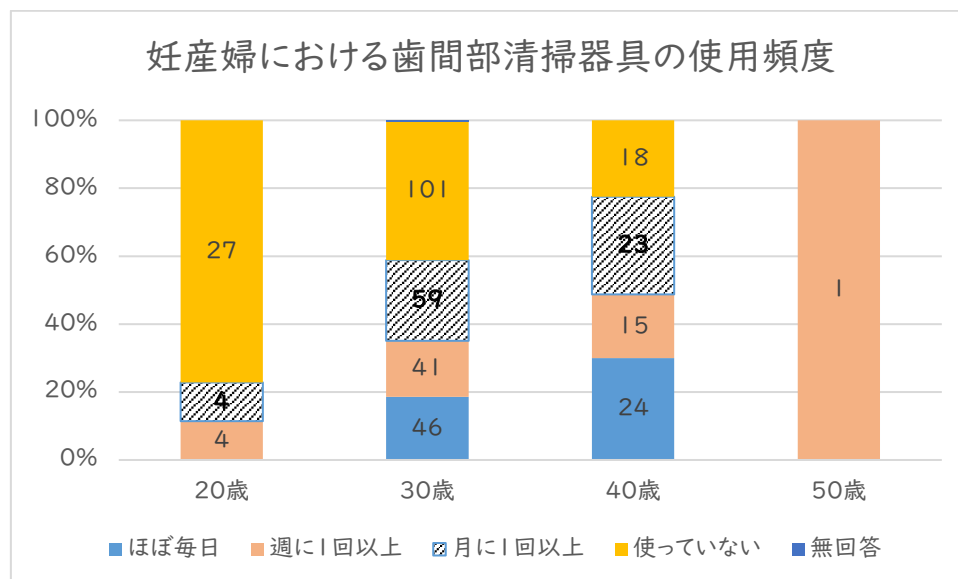
②妊産婦健診における歯周病（歯肉炎と歯周炎）の状況



数値は人数を示す

20歳の51%に歯周炎（歯周ポケットの深さの最大値が4～5mmの場合）が認められ、30歳と40歳の3, 4%に進行した歯周炎（歯周ポケットの深さの最大値が6mm以上の場合）が認められた。

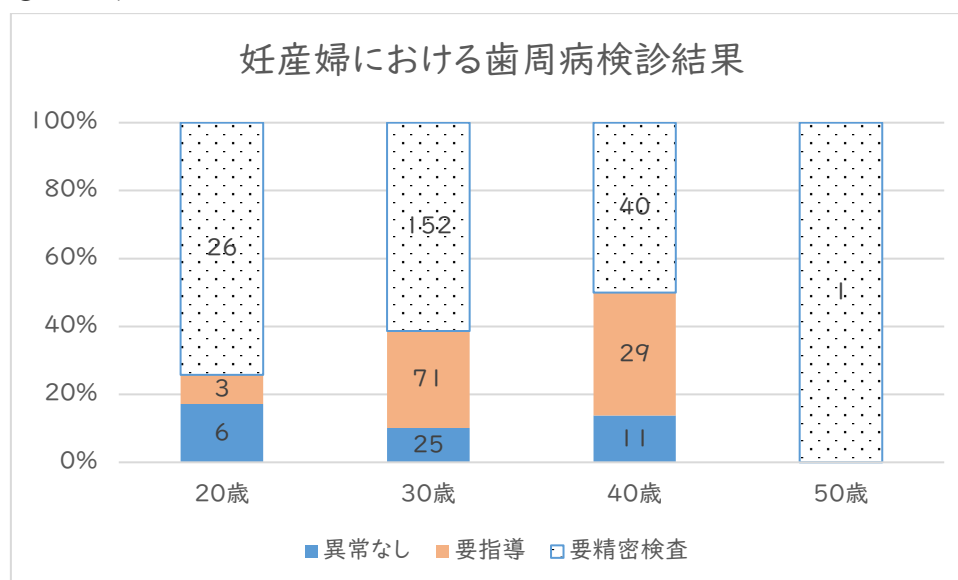
③妊産婦健診における歯間部清掃器具の使用頻度



数値は人数を示す

20 歳、30 歳と 40 歳になるにつれて、歯間部清掃器具の使用頻度は増加しているが、毎日使用している者は少なく、20 歳ではゼロ名であり、30 歳では 19%、40 歳では 30%であった。

④妊産婦健診の結果



数値は人数を示す

妊産婦健診の結果、要精密検査の割合は全体で 60%であった。この割合は成人歯科健診受診者の割合とほぼ同じであった。

結果のまとめ

佐世保市は、令和 6 年度から満 30 歳の市民を対象に歯周病検診の無料クーポン券を送付した。満 30 歳、40 歳、50 歳と 60 歳の受診者数の割合は対象となる人口の 5% であり、昨年と同様の受診の割合であった。節目健診受診者は成人歯科健診受診者の割合の 56% であった。男性の受診率が低く、20 歳代で 17%、30 歳から 80 歳代では 40% 程度であった。成人歯科健診ならびに妊産婦歯科健診の結果、要精密と判断された者の割合は 60% 程度であった。

第 2 次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画における指標とその目標値と令和 6 年度における 975 名の成人歯科健診結果を表 1 に示す。指標の年齢に併せて R6 年度の結果を算出した。

表 1

目標	指標	目標値	R6 年度
歯・口腔に関する健康格差の縮小	40 歳以上における自分の歯が 19 本以下の者の割合	9%	7% (756 名中 52 名)
未処置のむし歯を有する者の減少	18 歳以上における未処置歯を有する者の割合	16%	35% (975 名中 344 名)
歯肉に炎症所見を有する者の減少	18 歳から 30 歳代(30 - 39 歳)における歯肉に炎症所見を有する者の割合	57%	37% (219 名中 82 名)
歯周病を有する者の減少	40 歳以上における歯周炎を有する者の割合	44%	49% (756 名中 366 名)
より多くの自分の歯を有する高齢者の増加	80 歳(75 - 84 歳)で 20 本以上の自分の歯を有する者の割合	70%	66% (41 名中 27 名)
よく噛んで食べることができる者の増加	50 歳以上における咀嚼良好者の割合	80%	92% (590 名中 542 名)
歯科健診の受診者の増加	過去 1 年間に歯科健診を受診した者の割合	65%	47% (975 名中 453 名)

考察

第 2 次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画における指標の目標値と R6 年度の健診結果を比較したところ、「40 歳以上における自分の歯が 19 本以下の者の割合」、「18 歳から 30 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合」と「50 歳以上における咀嚼良好者の割合」は、すでに目標値に達している。一方では、目標値達成には遠く、「18 歳以上における未処置歯を有する者の割合」は 35%であり、目標までに半分に減らす必要があることが分かった。各年齢における一人平均未処置歯数は 1 本であり、決して多くはないと思われるが、18 歳になる前の学校生活でのフッ化物洗口を含むう蝕予防活動を継続していく必要があると考えられる。

「40 歳以上における歯周炎を有する者の割合」が目標値よりも高く、49%であったことから、若年者からの歯周病予防対策が必要であり、R6 年度から開始された満 30 歳を対象にした歯周病検診の無料クーポン券の送付は意義のあることと考えられる。

「過去 1 年間に歯科健診を受診した者の割合」については、目標達成までに 18 ポイント増加させる必要がある。節目健診の受診者の割合が対象となる人口の 5%程度であるが、成人歯科健診を利用した受診者への丁寧な保健指導を行い、かかりつけ歯科医院へつなぐ地道な努力を継続する必要があると考えられる。